

4 上品山

(1) 調査地区の概要と調査の目的

今回は、上品山のススキ群落における植生の組成を確認するため調査を行った。

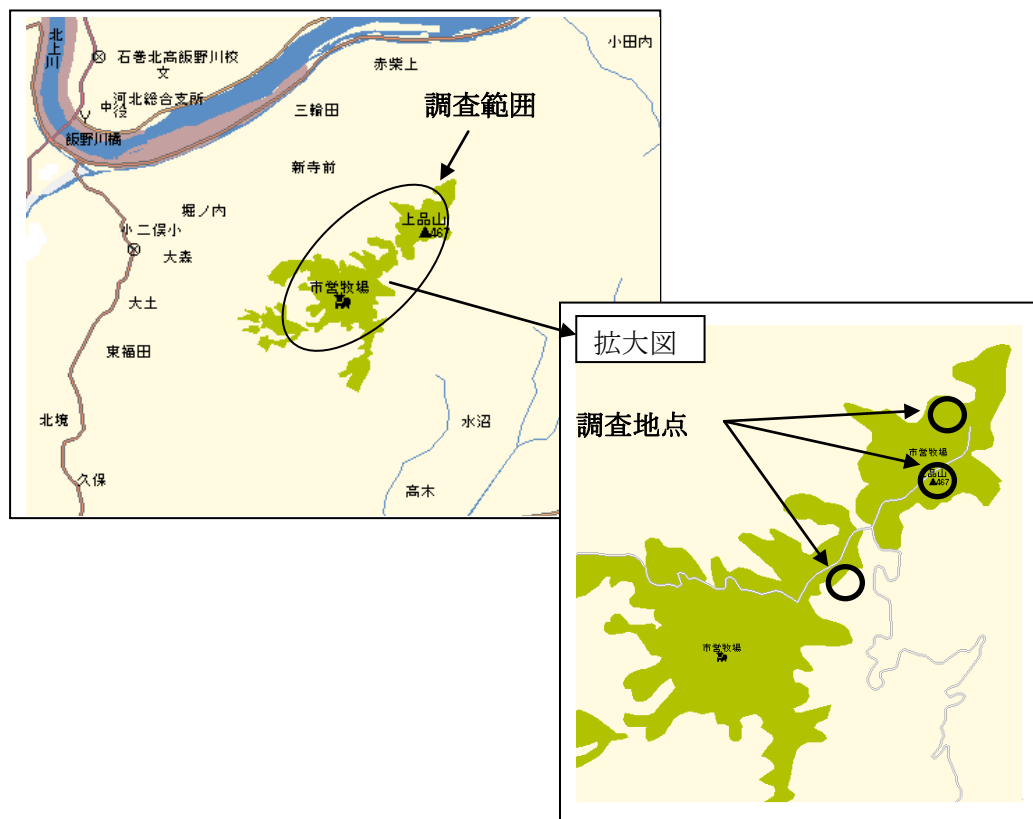
上品山は、ほぼ本市の地形上の中心に位置している標高467mの低山であり、その頂上部分には北から東、南の斜面に広いススキ草原が形成されている。その相観は一様ではなく、形成された時期や管理の仕方によると思われる相観の異なる群落の集合となっている。

長い間人為が加わることのなかった部分ではアカマツ、アズマネザサなどが目立つようになり、斜面上部ではアカマツ低木林を形成しているところも認められる。また谷筋下部の窪地には面積的には小さいが、オギ群落の形成も見られる。

今回の調査は、種類組成上から上品山のススキ草原の現状を把握することを目指して実施したものであり、ススキ草原の中からなるべく相観の異なる場所を選んでススキ草原では2m×2m、アカマツ低木林では5m×5mの方形区をつくり、その中に出てくる植物の種類を書き出し、一つ一つの植物の生育状態を被度・群度という尺度を用いて記録した。

草原の全体についての調査は時間的に不可能なので、頂上周辺部から南の東斜面上部の区域を調査することにし、ススキ草原群落9箇所、アカマツ低木群落1箇所に調査区を設けて実施した。

その記録を基にして群落組成表と出現植物の常在度表をつくり、考察を行った。



(2) 上品山頂上付近ススキ群落常在度表

平成22年11月

種名	常在度	常在度階級	
アカマツ	3	Ⅱ	5~1
マルバアオダモ	2	Ⅰ	1
ミズキ	2	Ⅰ	1
コシアブラ	1	Ⅰ	1

ガマズミ	8	Ⅳ	2~+
ヤマツツジ	4	Ⅱ	2~1
モミジイチゴ	4	Ⅱ	2~1
ムラサキシキブ	2	Ⅰ	1~+
サワフタギ	2	Ⅰ	2~+
クリ	2	Ⅰ	+

マルバハギ	2	Ⅰ	3~2
アズマネザサ	2	Ⅰ	2~1
ヤマモミジ	1	Ⅰ	1
バッコヤナギ	1	Ⅰ	1
アズマザサ	1	Ⅰ	5
コナラ	1	Ⅰ	1
イヌシデ	1	Ⅰ	+
ヤマグワ	1	Ⅰ	+
クロモジ	1	Ⅰ	+
クマイチゴ	1	Ⅰ	1

ナワシロイチゴ	7	Ⅳ	3~+
ミツバアケビ	4	Ⅱ	2~+
フジ	1	Ⅰ	3
ノイバラ	1	Ⅰ	1
ツルウメモドキ	1	Ⅰ	+
マツブサ	1	Ⅰ	+
サルナシ	1	Ⅰ	+

種名	常在度	常在度階級	
ススキ	10	Ⅴ	5~3
ヨモギ	10	Ⅴ	2~+
ノコンギク	7	Ⅳ	1~+
キンミズヒキ	6	Ⅲ	+
ゲンノショウコ	4	Ⅱ	1~+
ツボスミレ	3	Ⅱ	1~+
トダシバ	3	Ⅱ	1~+
クルマバナ	3	Ⅱ	+
メドハギ	3	Ⅱ	1~+
ミツバツチグリ	3	Ⅱ	2~+
ノハラアザミ	2	Ⅰ	+
リンドウ	2	Ⅰ	+
オトコヨモギ	2	Ⅰ	+
アカネ	1	Ⅰ	+
フキ	1	Ⅰ	1
オトギリソウ	1	Ⅰ	+
ナンブアザミ	1	Ⅰ	+
スミレ	1	Ⅰ	+
スイバ	1	Ⅰ	+
カワラマツバ	1	Ⅰ	+
ヤマユリ	1	Ⅰ	1
コナスビ	1	Ⅰ	+
キジムシロ	1	Ⅰ	1
センブリ	1	Ⅰ	+
センボンヤリ	1	Ⅰ	1
アキノキリンソウ	1	Ⅰ	+
オトコエシ	1	Ⅰ	+
ニガナ	1	Ⅰ	+
キッコウハグマ	1	Ⅰ	+
タガネソウ	1	Ⅰ	1
オカトラノオ	1	Ⅰ	+

スイカズラ	4	Ⅱ	1~+
ヘクソカズラ	4	Ⅱ	+
オニドコロ	3	Ⅱ	+
サルトリイバラ	3	Ⅱ	1
ヤブマメ	2	Ⅰ	1~+
ノブドウ	1	Ⅰ	+
サンカクヅル	1	Ⅰ	+

オオアワダチソウ	3	Ⅱ	3~1
ヒメジョオン	1	Ⅰ	1
ヒロハウシノケグサ	1	Ⅰ	+

(3) 調査結果についての考察

ア 確認できた植物の種類

ススキ群落常在度表は今回の調査で確認した全植物と調査区に出現した回数（常在度）とその程度（常在度階級:高い方からⅤ・Ⅳ・Ⅲ・Ⅱ・Ⅰの5段階に分けてある。）と調査区内での被度の状態を記録してある。

ススキ群落9調査区とアカマツ低木群落（アカマツーススキ群落）1調査区を合わせた全調査区で確認した植物は、木本植物27種、草本植物41種、計68種で、帰化植物3種が含まれている。

ススキ群落では木本18種、草本31種、合計49種で、帰化植物は3種確認された。ススキ群落だけに出現した植物は木本9種、草本19種で、帰化植物は2種であった。アカマツ低木群落では木本18種、草本21種、合計39種で、帰化植物は1種確認された。アカマツ低木群落だけに出現した植物は木本9種、草本10種で、帰化植物は0であった。

ススキ群落、アカマツ低木群落の両方に出現した植物は、木本9種、草本11種で、帰化植物は1種だけであった。

イ ススキ群落の構成種と遷移

ススキ群落で出現回数の多い常在度階級Ⅲ以上を示す植物をあげるとヨモギ（Ⅴ）、ガマズミ（Ⅳ）、ナワシロイチゴ（Ⅳ）、ノコンギク（Ⅳ）、キンミズヒキ（Ⅲ）である。これらは、ススキ群落全体の特徴を現わしている種と見ることが出来る。

また、常在度は低くとも高い被度を示す植物アカマツ（5）、アズマザサ（5）、アズマネザサ（2）、マルバハギ（3）、オオアワダチソウ（3）、フジ（3）、ミツバツチグリ（2）などはススキ群落の中での部分的な特徴を示している植物とみることが出来る。上品山のススキ草原にはススキ・アカマツ群落、ススキ・アズマザサ群落、ススキ・アズマネザサ群落、ススキ・マルバハギ群落、ススキ・オオアワダチソウ群落・ススキ・フジ群落、ススキ・ミツバツチグリ群落などいろいろな型の群落が形成されていることが分かる。

上品山のススキ草原は、かつては草本植物が主のススキ・ヨモギ群落だったと考えられるが、現在はガマズミ、ナワシロイチゴなどの木本が主な群落構成種となっている。このことは、かなり遷移の進行している状態のススキ草原だということである。アカマツ低木林はさらに遷移が進んだ状態であり、管理の方法に変化が無ければ、ススキ草原全体の将来の姿を示しているということにもなるであろう。

(4) レッドデータブック（RDB）掲載種について

今回の調査で確認できたRDB掲載種は、次のとおりである。

- ・宮城県準絶滅危惧種 リンドウ（リンドウ科）

(5) 調査で確認した植物の状況

・マルバハギ



・スイカズラ



・アズマネザサ



・リンドウ



・ノコンギク



・ガマズミ

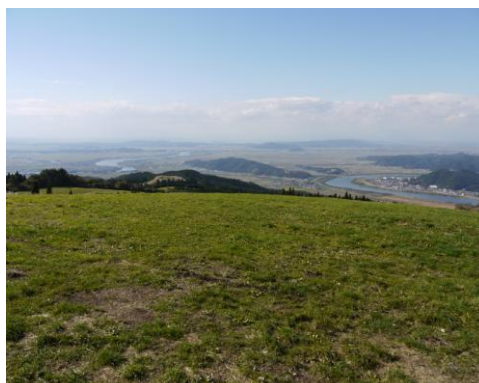


風景

・サルトリイバラ



・上品山頂上付近から見た北側の



・センブリ



・ヤブムラサキ



・ススキ群落 1



・ススキ群落 2



(6) 調査で確認した種子植物一覧

ア 裸子植物

科名	種名	花・実	備考
マツ科	アカマツ		

イ 被子植物

(ア) 双子葉植物

a 離弁花類

科名	種名	花・実	備考
ヤナギ科	バッコヤナギ		
カバノキ科	イヌシデ		
ブナ科	クリ		
	コナラ		
クワ科	ヤマグワ		
タデ科	スイバ		
マツブサ科	マツブサ		
クスノキ科	クロモジ		
アケビ科	ミツバアケビ		
マタタビ科	サルナシ		
オトギリソウ科	オトギリソウ		
バラ科	キンミズヒキ		
	キジムシロ		
	ミツバツチグリ		
	ノイバラ		
	クマイチゴ		
	モミジイチゴ		
	ナワシロイチゴ		
マメ科	ヤブマメ		
	マルバハギ		
	メドハギ		
	フジ		
フウロソウ科	ゲンノショウコ		
カエデ科	ヤマモミジ		
ニシキギ科	ツルウメモドキ		
ブドウ科	ノブドウ		
	サンカクヅル		
スマレ科	スマレ		
	ツボスマレ		
ミズキ科	ミズキ		
ウコギ科	コシアブラ		

b 合弁花類

科名	種名	花・実	備考
ツツジ科	ヤマツツジ		
サクラソウ科	オカトラノオ		
	コナスビ		
ハイノキ科	サワフタギ		
モクセイ科	マルバアオダモ		
リンドウ科	リンドウ	花	準絶滅危惧(宮城県)
	センブリ		
アカネ科	アカネ		
	カラマツバ		
	ヘクソカズラ		別名：ヤイトバナ
クマツヅラ科	ムラサキシキブ		
シソ科	クルマバナ	実	
スイカズラ科	スイカズラ	実	
	ガマズミ	実	
オミナエシ科	オトコエシ		
キク科	キッコウハグマ		
	オトコヨモギ		
	ヨモギ		
	ノコンギク	花	
	ナンブアザミ		
	ノハラアザミ		
	ニガナ		
	センボンヤリ		
フキ			

科名	種名	花・実	備考
キク科	オオアワダチソウ		逸出植物
	アキノキリンソウ		
	ヒメジョオン		帰化植物

(イ) 単子葉植物

科名	種名	花・実	備考
ユリ科	ヤマユリ		
	サルトリイバラ	実	
ヤマノイモ科	オニドコロ		
タケ科	アズマネザサ		
	アズマザサ		
イネ科	トダシバ		
	ヒロハウシノケグサ		帰化植物
	ススキ	実	
カヤツリグサ科	タガネソウ		

參考資料

石巻市域における宮城県レッドデータブック掲載植物群落一覧

ランク 1：要注意 2：破壊危惧 3：壊滅危惧 4：壊滅状態 5：壊滅

備考 特：特定植物群落 国：国定公園 県：県立自然公園

植生帯	群系名	名 称	ランク	備 考
海岸地帯 (11/27)	暖温帯樹林(8/14)	弁天島のタブノキ群落	3	特・国
		田代島のタブノキ群落	2	特・国
		網地島のタブノキ群落	2	特・国
		岸山王島のタブノキ群落	2	国
		桂島のタブノキ群落	1	特・県
		小出島のタブノキ群落	1	国
		貢尻島のタブノキ群落	1	特・国
	海岸樹林(3/11)	沖山王島のモチノキ群落	1	特・国
		清崎のアカマツ群落	4	特・国
		神割崎のクロマツ群落	2	特・国
平野地帯 (1/2)	川辺植物群落(1/1)	追波川のヨシ群落	1	特
丘陵地帯 (6/47)	中間温帯樹林(4/36)	牧山のモミ・イヌブナ群落	1	特（植物群落保護林）
		牧の崎のモミ・スギ群落	1	特・国（材木遺伝資源保存林）
		駒ヶ峰のモミ群落	1	特・国（材木遺伝資源保存林）
		尾崎神社のイヌシデ群落	2	県
	半自然草原(2/2)	旭山のシバ群落	3	県
籠峰山のシバ群落		3	県	
山地帯 (1/27)	冷温帯樹林(1/24)	牧山のブナ群落	2	特・県
群落複合 (4/51)	池沼植物群落(1/18)	富士沼の池沼植物群落	1	
	砂浜植生(1/4)	長面浜の砂浜植物群落	4	特・国
	島嶼植生(2/5)	金華山の植物群落	3	特・国
		八景島の植物群落	1	特・国（国天然記念物）

※ 「荒島のタブノキ群落」については、宮城県レッドデータブックにおいて2001年3月発行の本編では雄勝町（現石巻市）と記載されていたが、2002年3月発行の普及版では志津川町（現南三陸町）と訂正されている。

平成22年度石巻市自然環境確認調査結果報告書

発行年月 平成23年3月
編集・発行 石巻市生活環境部環境課
〒986-8501 宮城県石巻市穀町1-4番1号
電話番号 0225-95-1111
ファクシミリ番号 0225-22-6120
E-mail isenv@city.ishinomaki.lg.jp
ホームページアドレス <http://www.city.ishinomaki.lg.jp/>